



査が行われた。その結果、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器などのほか、平安時代後期以降の屋瓦片が多数出土した。遺構としては、柱穴・井戸・小溝のほか調査地南端では、ロストル式の瓦窯も二基検出され、寺院跡であることが確認された。木簡が出土したのは、杉と思われる針葉樹の板を組み合わせた円形の井戸からである。この井戸は、板と板とを接合するのに竹の目釘が使われている。井戸内からは中・近世の屋瓦類や牛のツメ切りに使用されたと思われる小型鎌が出土している。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「。泉錦×

・「。泉錦×
〔泉錦カ〕
・「。□□×
(穿孔)

(108)×38×4 019

材質は針葉樹である。上部に小孔が穿たれていることから、付札のようなものではないかと考えられる。「泉錦」が何を意味するのか明らかでない。

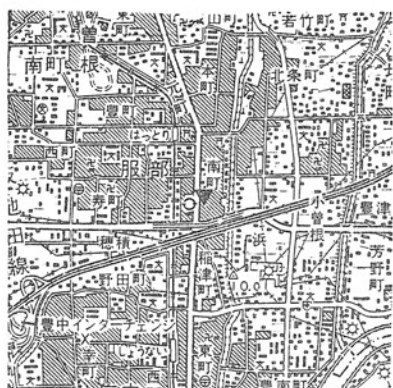
9 関係文献

大阪府立泉北考古資料館『記された世界』(一九八四年)

(近藤利由)

大阪・穂積遺跡

- 1 所在地 大阪府豊中市服部南町
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)七月～八月
- 3 発掘機関 豊中市教育委員会
- 4 調査担当者 田上雅則
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪西北部)

穂積遺跡は、猪名川、天竺川、神崎川などの大小河川によって形成された沖積平野に立地する、弥生時代後期から室町時代に亘る複合遺跡である。周辺には勝部遺跡、田能遺跡、庄内遺跡など学史的にも著名な遺跡が点在し、また、大阪府指定史跡の春日大社南郷目代今西氏屋敷に所蔵される『今西家文書』より、撰家領垂水西牧榎坂郷に含まれる事が判明しており、考